

# 喧噪と貧困の国 インド

## ボンベイ日本人学校から見たインド

札幌市立元町小学校  
教諭 小松 裕和

### 1. はじめに

私は、インド・ムンバイへの派遣連絡を受けた際、全くといってよいほどインドについての正しい知識を持ちあわせていませんでした。このような中での派遣でしたが、3年間の派遣を通して、インドの文化や風習、日本との相違点、日本人学校のよさを肌で感じ、日本の子ども達へ少しでも還元できたらと考えています。

### 2. インドの概要

インドは、11億9800万人(2008年)の人口と日本の約9倍もの国土を持つ世界でも大きな国の一つです。



今から100年以上昔の明治の時代にはインドで生産された綿花を買うためにたくさんの日本人がインドに来ていました。私の派遣先であるムンバイ(孟買)にも、最盛期には三千人もの日本人の方々が住んでいました。また、太平洋戦争直後、インドのネルー首相は日本の子ども達を励まそうと象をプレゼントしてくれました。その象には首相の娘と同じインディラという名前がつけられ、長い間上野動物園で子どもたちの人気者になっていました。



「インディラ」とネルー首相(左から二人目)  
(1957年ネール首相が日時の写真)

このように、インドと日本とは古くから深い結びつきがあり、互いに良好な関係を築いてきた歴史があります。最近の国際情勢の多極化により、日本とインドの関係も今まで以上に深まり、両国の首相がお互いの国を行き来したり、国連の安全保障理事国になるために協力する関係になったりしています。

### 3. インドの自然

#### (1) 地形

インドは、三角形を逆さにした形で、インド洋に突き出しているユーラシア大陸の半島で

国は全体としてひし形になっています。日本の国の約9倍の面積(3,287,263 km<sup>2</sup>)があります。

インドは、大きく4つの地形に分けることができます。一つはヒマラヤ山脈を中心とする地域です。ヒマラヤの名は、ヒマ=雪とアーラヤ=館を合わせてできた言葉で「雪の館」の意味です。二つ目はガンジス川とインダス川の上流につくられたヒンドスタン平原地域です。三つ目は乾燥地帯のタール砂漠です。タールとは、「砂の荒地」の意味です。東西に約360km(東京～大阪間約500km)あり、南北に約640kmあります。この砂漠は現在も広がり続けています。そして半乾燥地帯のデカン高原です。デカン高原は、地球上もっとも古いゴンドワナ大陸の一部です。

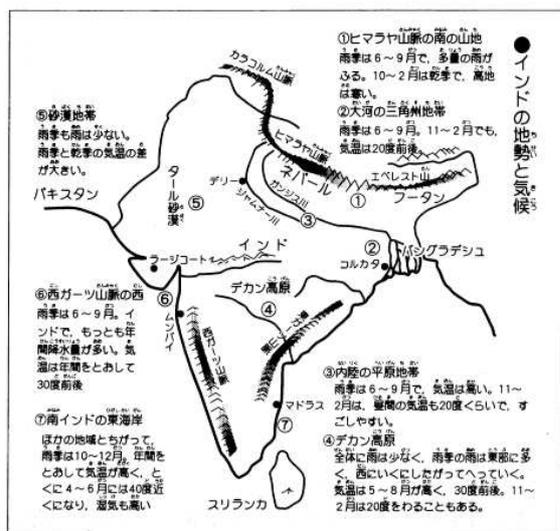


(デカン高原のはじまり：ロナワラ近郊)

#### (2) 気候

インドは、国土面積が大変広いため昔からインド亜大陸と呼ばれていました。ですから、いくつもの気候をあわせもっているという特徴があります。インドの気候の様子は、ヒマラヤ地方は日本と同じ温帯ですが、とても高い山々があるので気温は低く、雪が降ります。また、カシミール地方では日本のように春・夏・秋・冬と季節の移り変わりががあります。ヒンドスタン平原では、5月頃気温が50度近くにあがることもあります。アラビア海に面した所は、熱帯モンスーンという気候で、雨季と乾季があり

ます。6月から9月にはほとんど毎日雨がふります。この時期の前後1カ月はとても気温が高くなります。11月から4月にかけては毎日快晴の日が続くことが多いです。しかし、ここ2・3年、数十年ぶりに極端に気温の低い日が続いたり、海面の高さが異常に高くなったり、季節はずれのハリケーンが来たりすることもあり、異常気象の影響が大きく出てきています。



(インドの地勢と気候)

私の住むムンバイでは、5月から8月までの期間はモンスーン期と呼ばれ、年間降水量のほとんどがこの時期に降っています。そのため、学校では、この時期には、早朝からスクールバスルートの見回りを行ったり、状況によっては、途中で授業を取り止め下校したりすることもあります。



#### 4. インドの生活習慣

##### (1) 衣装

インドの民族衣装といえば女性が長い布を上手に体に巻き付けるサリーが有名ですが、インドの衣服は、住んでいる地域や



階級、宗教、職業などの影響で多くの種類があります。パンジャブ丘陵やヒマラヤなどの寒い地方ではウールの衣服やショールが必要です。反対に、暑さのきびしい地方では、風通しが良く、強い日ざしをさえぎることのできる衣服が必要です。このように、それぞれの地方に適した衣服が用いられています。

##### (2) 食事

###### ①インドのカレー

インドといえばカレーというほど日本人にとって一番親しみやすいものがカレーです。カレーは日本の給食でも人気がありますが、本場のインドカレーの味やその食べ方は違います。まず、お皿に盛られたカレーの量が全く違います。



(インドの家庭での食事)

日本ではご飯と同じ量またはそれ以上のカレーが出されますが、インドでは、少量のカレーにチャパティ（インドのパン）やご飯があるだけです。それは、インドのカレーがとても辛いからで、「かけて」食べるのではなく、ちょっとだけ「つけて」食べるものだからです。

###### ②インドのスパイス

スパイスというと辛いことを思い出しますが、辛いものはチリと呼び、味を付けるものをスパイスと呼んでいます。スパイスはどこでも手に入り、50種類もあげられます。各家庭では自分の好みで一つの料理に最低5、6種類を使い料理していきます。また、単にいろいろな味をつけるだけではなく、風邪をひいたときはシナモンを多く入れるなど体調によってスパイスの量をかえることがあります。スパイスの中には薬の働



きをするものもあるのです。一番人気のあるスパイスは「マサラ」と呼ばれるもので、数種類のスパイスがミックスされて売られているもの



(お店で売られているいろいろなダールやスパイス)

です。マサラは地方や家庭によって異なりますが、このマサラはカレーだけでなく、アイスクリームやポテトチップスや紅茶の味付けにも使われています。

### ③家庭で食べるもの



(上：チャパティ  
下：プーリー)

インドにもインディカ米という米がありますが、インド人は他にチャパティ、プーリー、ナン、ロマネローティなどを主食としています。小さなフライパンで作るのがチャパティ、油であげたものをプーリーと呼び、家庭で作って食べています。ナンとローティは特別のかまや道具が必要なのでレストランで食べる人が多いようです。普段家庭で食べているものは1、2種類のカレーとプーリーやチャパティ、野菜サラダとヨーグルト、デザートに甘いお菓子です。特にヨーグルトは、辛いカレーを食べた後にお腹の調子を整える効果があるため欠かせないようです。

### ④インド料理の食べ方

一口にインド料理といってもたくさんの種があります。北インド料理、南インド料理、野菜料理、肉料理などいろいろありますが、代表的なものはターリーと呼ばれる食事スタイルです。



(上写真：ターリー)

丸いピカピカのお盆が目の前に運ばれ、そのお盆の縁に数種類のカレーの他に付けもの、野菜サラダ、ヨーグルト・甘いも

のなど計5、6種類のものが盛られます。お盆の中央にはライス・チャパティ・プーリーなどがお好みで載せられます。準備ができれば、真ん中のものと周りのものを混ぜ合わせながら食べます。インド人は全てのものを器用に右手



(バナナの葉のお皿)

だけで食べます。チャパティやナンを右手だけでちぎり、カレーにつけて食べます。中央

に盛られたライスとカレーを右手で混ぜて親指、人差し指、中指を使って上手に口に運びます。食べ終わると必ず手を洗うためのフィンガーボールがでできます。

### ⑤くだもの

南国インドではくだものが豊富です。スイカ、メロン、リンゴ、バナナ、オレンジ、パイナップルなど日本で馴染みもの他にパパイヤ、スイートライム、マンゴー、ライチカスタードアップルなどの熟したものが手ごろな値段で手に入ります。路上には色とりどりのフルーツを売るくだもの屋の姿を目にします。



(学校の近くのくだもの屋)

### (3) 住宅

ムンバイはインドの中で一番大きい貿易港として昔から栄えてきました。今でもインド人だけでなく外国人の出入りも多く、インド経済の中心都市として栄えています。しかし、土地が狭いため、人が住むための家やフラット(アパート)の設備が十分とは言えず、住む場所をムンバイ市内で探すことはとても難しい状況になってきています。そのために、家賃もインドで一番高く、世界的にも高い都市となっています。

### ①一般的な家庭の様子

仕事を求めて遠くからやってきた人が多いムンバイでは、フラットの家賃や家の値段が高いので、小さな家に大勢の家族が暮らしていることが多いようです。

家に入るときは玄関でくつをぬいで入れなければいけません。また、夜は床にタオルケットのようなものをして寝ます。しかしムンバイではこのような習慣がなくなりつつあり、ヨーロッパやアメリカのようにくつのまま家に入ってベッドに寝る人も多くなっています。また、インドの家の中では神様が大切にされています。家の中には神様の小さな部屋があったり、神様の写真や像と花が壁の棚に置いてあったりします。狭い家でも神様の場所を大切にしています。さらに、インドのトイレにはトイレットペーパーがないことがしばしばあります。インドではトイレットペーパーを使う習慣があまりなく、上手に水をかけて左手でおしりをきれいにするのです。



(一般家庭の様子)

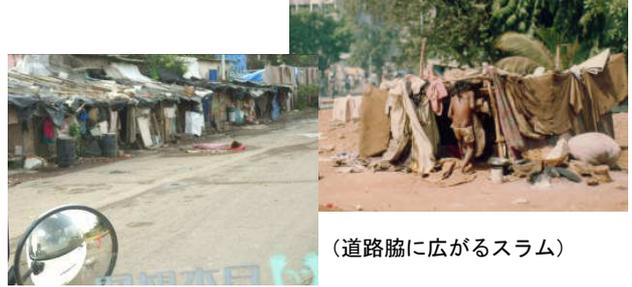
### ②マハラジャの家

インドには昔各地方にマハラジャと呼ばれる王様がいました。マハラジャはお金持ちでそれぞれの領地を治めていましたが、今ではその力がだんだん小さくなり、マハラジャの家はホテルになったり、現在のお金持ちが住んだりしています。マハラジャが住んでいたとても大きい家はインドでとれる大理石でできていて、壁や床、天井もきれいに飾られています。その美しさや家の広さで昔のマハラジャの力の大きさがわかります。

### ③路上に住む人の家

ムンバイには、道路のそばや空き地に住んでいる人がたくさんいます。これらの人は仕事を

さがすために地方からやってきた人が多く、ビニール、布、木や壁をうまく利用しながら家を作り生活しています



(道路脇に広がるスラム)

## 5. インドの産業

### (1) 概要

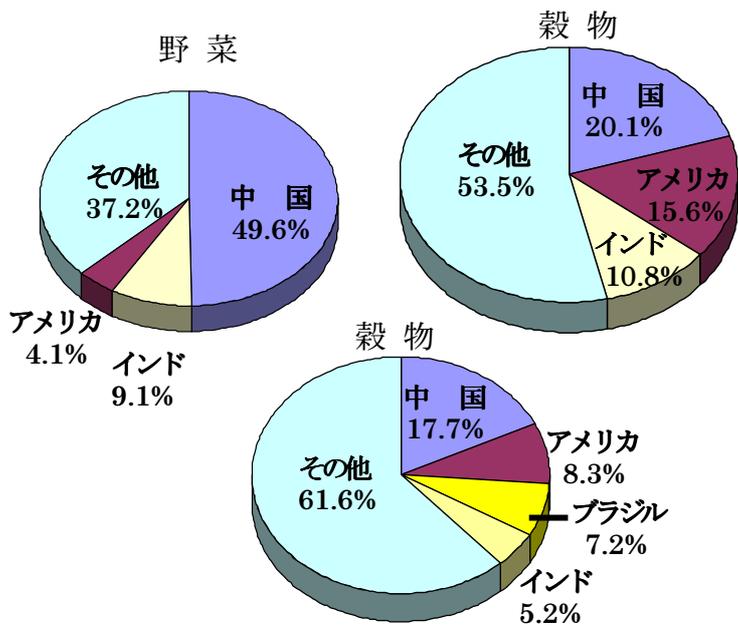
インド政府は、イギリスからの独立以降、重工業の育成を図り、国内産業を保護してきました。また、1991年の通貨危機をきっかけに、インド型社会主義から経済自由化へと大きく政策を転換しました。産業の様子では、農業、サービス業の比率が高いのですが、近年は農業が減少し、サービス業が伸長する傾向にあります。貿易の主な貿易品目は、輸出が宝石や医薬品、輸入は宝飾製品や原油などがあります。

### (2) 農業

インドは、今なお農業を中心として成り立つ農業国(穀物自給率は106パーセント)です。国内総生産に占める農業の割合は、産業構造の変化に伴い比率は下がる傾向にありますが、農業人口は約2億8千万人で全体の7割を超えています。また、就業人口の6割が農業に従事し、現在も増加傾向にあるなど、国民経済の中で重要な産業となっています。



主要農作物は、コメ、小麦、サトウキビ、紅茶、コーヒー、ジュート等で、紅茶とジュートについては世界第1位の生産国です。農業用の土地は、そのほとんどが地主の持ち物で、そこで小作人が農業をしています。そのため、利益の多くは地主のものになってしまい、小作人は大変貧しい生活をしています。



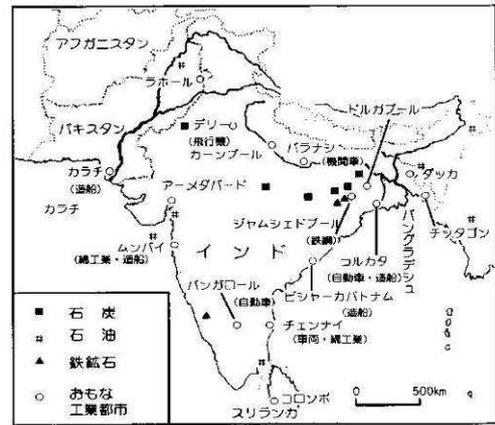
農産物生産に占める主要国の割合 (2006年)

### (3) 工業 (地下資源)

イギリスからの独立後、少しずつ発展し、原子力発電所や人工衛星を作ることができる技術も持てるようになりました。インドでは、サービス業の割合が1990年の41%から54%へ増えており、IT産業をはじめ、自動車などの産業が盛んになってきたからと考えられています。また、現在インド政府は、積極的に他の国の技術を取り入れるために、外国の企業とインドの企業が協力して仕事ができるようにしています。

インド国内の工場は、原料、交通、電力、水、そして労働力など州によって違いがあり、それぞれの特色を生かした産業が発達してきました。中でも、石炭や鉄鉱石の産地は北東部に集中しているため、その付近はインド最大の重工業地域となっています。ムンバイでは、綿工業や造船が有名でしたが、近年綿花の価格が下がってきたことから綿工業は少なくなり、証券や医薬品などの分野が盛んになってきました。また、ムンバイの近郊にあるプネーでは、ITを中心としたソフトウェア産業、自動車産業が盛んです。

この他にも、カルナタカ州のバンガロール市などを中心に、コンピューターのソフトウェア開発などのIT産業、自動車産業もさかんになっています。



南アジアの鉱工業

### (4) 貿易

インドはたくさんの品物や原料を輸出しています。しかし、輸出額よりも輸入額のほうが多いので貿易赤字という問題が起きています(約368億ドルの赤字)。しかし、2004年と2006年の貿易額を比べてみると、輸出・輸入額ともに約1.5倍に増えています。ここ数年間で、インド経済が大きく成長していることがわかります。今後、ますます貿易は伸びてくると見られています。

特に、インドの貿易相手国を見ると、輸出ではアメリカ合衆国・アラブ首長国連邦・中国の3カ国で30パーセントを占めています。また、輸入では、中国・アメリカ合衆国・スイスの3カ国で20パーセントになります。このようにインドも近隣の国々をはじめ、いろいろな国と貿易を通して関係を深めています。

### (5) 日本との関係

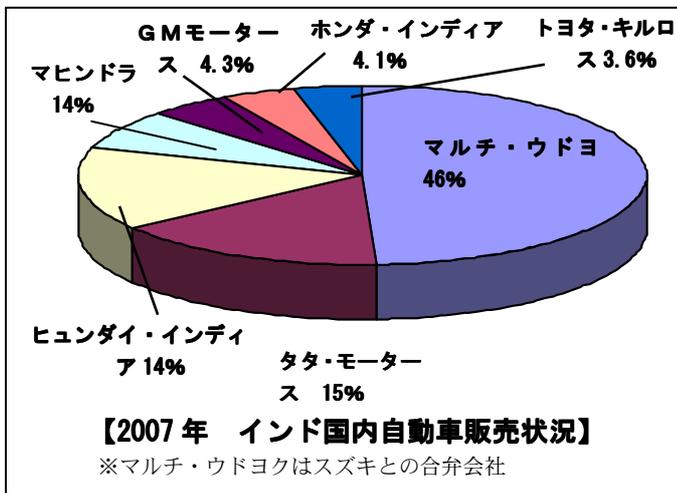
日本との貿易については、輸出額としては第22位、輸入額としては第28位(2008年統計)となっていますが、前の年との比較では20パーセント以上伸びています。また、インドにとっては、輸出額11位、輸入額11位(2008年統計)となっており、前の年との比較でも20パーセント以上伸びています。このように、日本にとっても、インドにとってもお互いの国がとても重要な国となっています。しかし、インドは日本に対しても貿易赤字をかかえています(約10億9300万ドル)。

最近では、日本の会社のインド進出も目立っています。インドは、高い経済成長率に支えられ、新しい市場として、世界中から注目されています。

インドと対日本貿易輸出・輸入品目  
(2003/2005年)

輸 出(百万ドル)	2003年		2005年	
	金額	割合	金額	割合
宝 石	288	22.4%	487	19.8%
海産物	227	17.7%	249	10.1%
鉄鉱石	116	9.0%	371	15.1%
繊維品	71	5.5%	89	3.6%
電気機器	57	4.4%	42	1.7%
機械類	41	3.1%	83	3.4%
衣 類	39	3.2%	86	3.5%
医薬品	37	2.9%	67	2.7%
有機化合物	26	1.9%	59	2.4%
植物油	19	1.5%	132	5.4%
その他	365	28.4%	794	32.3%
<b>総 額</b>	<b>1 2 8 6</b>		<b>2 4 5 9</b>	

今までに進出してきた企業の他にも、建設材料や化学薬品、繊維、機械、その他の企業もインドを巨大な市場と考え進出を始めています。経済面での、日本とインドのつながりは、今後強いものとなっていくと考えられます。



6. 多くの民族と複雑な社会

(1) 言語

インドには推定約12億人(2009年までの増加率換算)もの人々が住んでおり、世界で2番目に人口の多い国です。そして現在もどんどん人口が増加しています。

また、インドの言語は、約1650種類もの言

語があります。インドのお金(お札)を見ると、英語を含め17種類の異なった言語で金額が書いてあります。それらの言語はインドの公用語(正式な国の言語)です。

インドでは、州が変わると話す言葉がまったく違います。私の住むマハラシュトラ州の人がタミルナドゥ州に行ったら話すことも新聞を読むこともできません。

ムンバイは、マラティー語が公用語となっていて、バスの行き先を示す番号などはマラティー語で書かれています。しかし、インド全体で通じるような共通の公用語は、ヒンディー語と英語です。



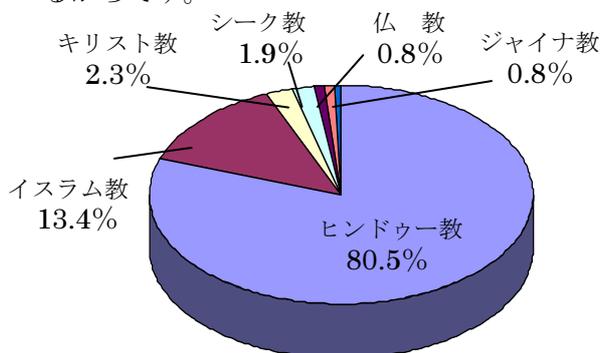
日 本 語	ヒンディー語
おはよう・こんにちは	ナマステー
ありがとう	ダンニヤワード
またね	フィル・ミレンゲ
あなたのお名前は何ですか	アプカ・ナム・キャ・ヘ
私の名前は〇〇です	メラ・ナム・〇〇・ヘ
これはいくらですか	イスカダム・キットナ・ヘ



(2) 宗教

インドの主な宗教には、ヒンドゥー教・キリスト教・シーク教・仏教・ゾロアスター教・ジャイナ教などがあります。そして、人々の生活はその宗教の影響を強く受けています。

インドのカレンダーを見ると、非常に休みの日（祝祭日）が多いのに気づきます。それは、これらの宗教が人々の生活に深く根ざしているからです。



インドの宗教別人口の割合

#### ①ヒンドゥー教

インドで最も信じている人が多いのは、ヒンドゥー教です。インドの人口の約 80 パーセントがヒンドゥー教徒だと言われています。ヒンドゥー教は、今から約 35000 年前アリア人がインドにやって来たころつくられました。



#### ②イスラム教（モスリム教：回教）

イスラム教はもともとインドでできた宗教ではありませんが、インドにかなり強い影響を与えました。現在では、1 億人ほどのインド人がイスラム教徒です。インドでは、独立後もパキスタンとの対立からヒンドゥー教徒とイスラム教徒との対立が何度もありました。2003、2006 年におきたテロ事件もこの 2 つの宗教対立が原因のひとつとなっています。



（イスラム教徒の女性）

#### ③キリスト教

1 世紀にシリアの聖トーマスがインドにキリスト教を伝え



（お祈りをするキリスト教徒）

ました。今でもゴアや南インドのケララ州、タミルナドゥ州にキリスト教を信じている人が多くいます。現在では、インド人全体の 2% 程度で約 2000 万人のキリスト教徒がいます。

#### ④シーク教

インド人というこのようにターバンを巻いている人をイメージする人が多くいますが、この人たちはシーク教の人々です。現在は、1400 万人のシーク教を信じる人々がいます。髪の毛やヒゲを切らないおきてを持っているため、髪の毛をたばねてターバンをかぶり、ひげをたくわえているのが特徴です。



（ターバンをしたシーク教徒）

#### ⑤ジャイナ教

インド以外の国には、広がっていません。現在では 200 万人以上のジャイナ教徒がインドにいます。不殺生を強調するので、肉や魚・卵、地下にできるじゃがいも類も食べません。また、知らないうちに飛んでいる虫を口に入れないように町を歩くときはマスクのようなものをかけているジャイナ教の人を見ることがあります。



（お祈りをするジャイナ教徒）

#### ⑥ゾロアスター教（パールシー教：拝火教）

ペルシャで栄えていた宗教です。火を絶対なものと考え、大切にしています。数としては 25 万人ぐらいの少数ですが、商売などで大きな仕事をして成功している人が多く、ムンバイには、この宗教の大切な建物である「沈黙の塔」があります。



（ゾロアスター教のマーク）

#### ⑦仏教

今から約 2500 年前ヒ



（仏教の塔）

ンドゥー教から分かれてできました。仏教発祥の地であるインドでは500万人以上、割合にして人口の0.8パーセントの仏教徒しかインドにはいません。しかし、仏教には親しみをもっている人が多いようです。

### (3) カースト制度

今から約3500年前に北インドにやってきたアーリア人は、そこに住んでいた人々を支配しました。そして、その頃から身分制度を作り、一部の人々を奴隷として使うなど厳しく差別しました。4つに分かれていた階級は、仕事の種類によってさらに細かく分類され、それが2千以上もの階級に分かれ、人々の生活に強く影響するようになりました。これをカースト制度といいます。

一番下の身分にされた人々は、触ただけでも汚れるものという意味の「不可触民」(ハリジャン)と呼ばれ、酷い差別を受けてきました。マハトマ=ガンディー(首相)は、この一番下の階級の人々が差別を受けず人間らしい暮らしができるように努力をした一人です。ガンディーはインドの国民に「人間は平等であり差別するべきでない」ことを訴えました。



(ゴミや下水、洗濯等を扱う人々)

今のインドの憲法では、このカースト制度を禁止しています。差別のない平等に暮らせる社会をめざしています。しかし、現実には今でもこのカースト制度は人々の心の中に根強く残っており、結婚をはじめとする人々の日常生活の中でカーストを意識せずに暮らしていくことはできないほどです。また、一番下層の階級だった人々は、十分な教育が受けられず、今でも貧しい生活を送っているのが現実です。そのため、政府は下層階級だった人々も社会に参画できるように進学などで優遇措置をとって

ます。また、ムンバイなど都市部では、カースト制度に縛られず生活する人々が多くなってきましたが、農村部にいくほど制度は根強く残っています。

## 7. 教育事情(学校制度)

### (1) インドの教育システム

インドでは、教育の基本方針を担う連邦府、その具現化のための制度や施設を整備する州、地区のように管轄が分かれ、さらに州による言語、カーストなどの違いが複雑に絡み合っているため、日本のような画一的な教育システムが構築されていないのが現状です。

しかし、基本的なシステムとしては、初等教育(小学校5年、中学校3年)の8年間、中等教育(高校2年、上級高校2年)の4年間、専修大学を含む高等教育(専修2年~3年、大学4年)というシステムになっています。



(統一試験の結果や優秀者を学校で表彰)

また、10年次、12年次には全国共通試験が実れ、この試験で上級学校への進学等が決められるため、受験熱は日本以上となっています。また、試験による進学については、各学校で足切り得点を決めているため、高得点を取っても学校によっては進学できないこともあり、大きな社会問題となってきました。

私の住むマハラシュトラ州では、初等教育(小学校4年、中学校3年)、中等教育(高校3年、上級高校2年、大学2年)となり、10年次の進学の際に高校もしくは大学などの高等教育の選択を迫られているようです。

### (2) 教育を取り巻く諸問題

#### ①識字率と就学率

インドにおける識字率は、2001年度調査によると全体で65%であり、日本を含めた先進国と比較にしてもかなり低い水準となっていま

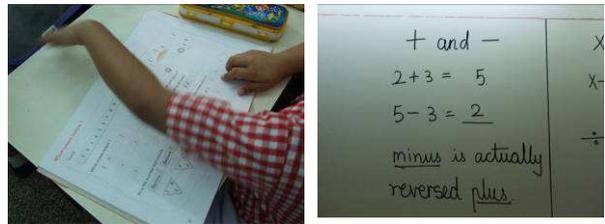
す。また、男性の識字率は76%であるのに対して、女性の場合は54%と格差が広がっています。しかし、同年の初等教育就学率を見ると82%であり、就学率が識字率反映していない現状があります。インド政府は2010年までに100%の就学率をめざすように関係省庁と連携を取っていますが、大都市など経済発展が進んでいる地域では就学率の上昇も見られますが、地方や農村部では改善が進まないことが問題となっています。つまり、インドの経済活動を支えるためには、学問（英語など）が必要であると肌で感じている人々と日々の暮らしで精一杯という人々の間での意識の違いが明確に現れていることを伺わせます。ただ、最近のインドの発展によって、IT産業を中心とした起業家の躍進や海外で活躍しているインド関係者の社会貢献で、若い人々には活躍のチャンスが広がり、そのチャンスを求めて学問に励む姿も各地で見られます。



## ②言語教育

インドは、多宗教・多民族国家を形成し、国土も日本の9倍と広いため、各地方の独自の文化や言語が残っています。このため、インドで使用される言語は、1650言語を超えるとも言われ、建国以降22の言語が憲法にも明記された公的な言語となっています。しかし、イギリスの統治時代を経て、英語を話す機会も多く、また、地域によって全く異なる言語が存在することから日常的には英語を共通語としている人々も多く、経済活動の盛んな地域では、外資企業とのコミュニケーションに必要なことから小さいときから英語を身につかせようとしています。学校教育でも、これらのニーズを受け、私立学校ではプレスクール（年長）から英語による学習を実施しているところも多く

あります。公立学校では、各州（地域）の定める言語を学習することが求められているため、日常的には地域の言語で学習し、英語を第2言語として学習するようになっています。



## ③教育費

公立学校における教育費は、学費、教科書代、文房具代、制服代、各種行事費等がありますが、学費については、無償で行われています。しかし、教科書（A5版）が1教科あたりRs6～Rs15程度必要です。また、ノートなどは、各家庭の状況によって違いがあり、もっている子、もっていない子が学級に混在しています。制服については、各学校で指定されているため、購入するか、お下がりなどを着せる状況です。このような費用が年間で、Rs2000（日本円1000円）程度必要とされるため、貧しい暮らしを余儀なくされている子どもたちは就学することもできない子、就学しても途中で学校を中退する子、学校に籍はあるが実質的には就学していない子も多く見られます。



私立学校は、比較的裕福な家庭の師弟が通っていることもあり、学校経営も安定し、施設も充実しています。このような私立学校では、学費は月額Rs20000～Rs50000とかなり高額になり、教科書についても各学校で採用している教科書を使用します。教科書は、オックスフォード大学編集による教科書などで、1冊当たりの単価もRs100近くします。しかし、最近の経済発展で、高額な私学への人気が高まり、小さいときから英語教育や受験教育を意識した保

護者が多く、順番待ちをしている状況があります。

### (3) 教育カリキュラム

公立学校における教育カリキュラムは、州政府の方針を受け、各学校独自に作られています。また、就学人数に対して施設が不足していることから2部制を採っている学校が多いようです。このような状況から、教科数も限定的に行われ、言語（国語）・算数中心のカリキュラムが編成されています。特に、日本との違いは、主要4教科（中学校5教科）に対して、芸体教科がほとんど組まれていない点です。また、1教科当たりの授業時間は30分をタームとし、教科書そのものが教育課程（教科）として扱われている点です。

学校は、午前の部が7時頃から11時30分頃までと、12時30分頃から5時までであり、それぞれ6～7時限の授業を行っています。

教師は、それぞれ直接教室へ入り、授業が終わると帰宅します。午前と午後の部で教師も入れ替わり、指導教具・教材等を見る限り、何十年も使用している教師が多いようです。この点については、本業の学校教師よりも高収入を得られる家庭教師という副業に力が入っているなど問題視もされてきています。

指導方法は、児童・生徒数40～50名の教室で、教師が学習内容を伝授するという形態をとっています。基本的には、学習内容を教師が一通り説明し、その後簡単な質問等をし、練習課題に取り組んでいます。しかし、子どもたちは、分からないことや疑問があると、すぐに挙手をし、質問をしていく点は、現在の日本ではあまり見かけない光景です。

### (4) 算数・数学科について

#### ①百×百の九九

日本で話題になっているインド数学ですが、実際にインドの学校でインタビューをしても百×百の九九を学習しているという学校はありませんでした。これは、インドのIT産業の発展等によるインドの算数・数学熱やラマヌジ

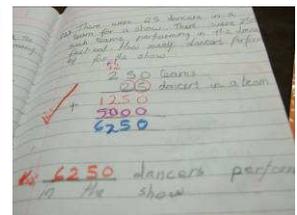
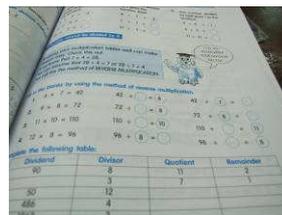
ャン、クマールといった高名な数学者を排出していることからその原因を探ろうとした過程でできたもののようです。しかし、上記したように、近年の算数・数学熱は激しく、子どもたちの授業を受ける態度も一生懸命です。

#### ②公立学校の教科書考察

マハラシュトラ州における使用教科書は、英語表記されいます。下に示した学習は、1年生の初期段階での学習内容ですが、日本と同じように数の認識から学習を進め、数の書き方や読み方を学習していました。しかし、日本と大きく異なる点は、日本では、数を使ってお話を作ったり、教具などの具体物を数えたりしながら認識力を高めることに対して、インドでは、挿絵の花や自動車などを数えることを中心としている点です。

学習内容	扱い時間
Introducing numbers(1 to 10)	
Numbers before, after or between	3 0 M× 2
Addition, subtraction(1 ~10)	3 0 M× 2
Introducing 11 or 12	3 0 M× 2
Introducing 13 or 14	3 0 M
Introducing 15 or 16	3 0 M

これは、教科時間内に算数的な操作活動をさせるゆとりがないことや教材備品がそろっていないなどの要因が考えられます。また、教科書に基づく取扱時間は、1年生で63M（1M=2/3コマ、日本標準42コマ）と日本の標準時数より8コマ分多く学習しています。しかし、取り扱い内容については、「数と計算」領域がその多くを占め、日本のような「図形」や「量と測定」といった内容は、かなり軽減されていることが特徴です。



1年次から9年次までの教育課程を見ると、概ね日本と同じような学習内容を扱っていることから、特にインドの算数・数学が特化している訳ではないことが伺えます。しかし、10年次からは、アルゴリズムやジオメトリなど、基礎数学が導入され、それぞれの学習内容を毎日1時間は学習し、基本的な考え方を身につけられるようになっていきます。この点については、日本の中高一貫校など学習内容を領域ごとに分類し、独自のカリキュラムにそって教育課程を編成している学校と類似しています。

### ③私立学校の教科書考察

私立学校でも基本的には、教科書が教育課程として扱われ、1単位時間が30分となっています。オックスフォード大学編纂の教科書を紹介しますと、この教科書では、初期の段階から数の大小、和や差を導入していることが特徴的です。特に、数を読むことや番目、数の分解などと合わせながら数を相対的に認識させようとしていました。また、その中には、お話を作ったり、数を記入させたりするなどの工夫も見られ、子ども自身が関連づけを図っていけるようにしています。

また、2位数同士の和・差算や筆算形式、かけ算もこの段階から導入され、日本の2年生程度の学習内容が取り扱われています。公立学校の違いは、この学習内容の違いが大きく、内容も充実している点です。

## 8. ボンベイ日本人学校

### (1) 学校の概要



(ボンベイ日本人学校の校舎)

ボンベイ日本人学校はムンバイ市西の海岸ぞいにあります。このあたりはインド映画の撮影にもよく使われる名所の一つです。学校はアラビア海に面

した住宅地の一角にあります。近くには大きな牛乳工場や商店街もあります。夕方になると、散歩や夕すずみのためにたくさんの人々が学校の前の道路にやって来るため、ココナッツジ

ュースや焼きトウモロコシを売る屋台も出て、大変にぎやかになります。2009年6月には、バンドラへつながる海上の橋(バンドラ-リーリソ)ができ交通の便も



よくなりました。ボンベイ日本人学校では、小学部の1年生から中学部の3年生までの子どもたちがいっしょに勉強しています。中学生は小学生をよくお世話し、小学生は中学生にいろいろと教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりしています。日本の学校ではなかなか見られないなごやかでほほえましい様子が見られ、子どもたちは日本の学校ではできない素晴らしい体験を数多くしています。学校の行事もいろいろと工夫して行っています。



クラブ活動では、3年生以上の子どもたち全員が「インド研究クラブ」に入り、インドを知るための活動を行っています。最近では「インドダンス」「街探検」「インドアート」「インド音楽」「料理研究」「ヨガ」などを行ってきました。楽しみながらインドのことを知る活動をしています。



(インド音楽研究クラブ・インド伝統工芸体験)

また、運動会は学校から少し離れたところにある大きなグラウンドを使い、日本人会の方々といっしょに行っています。保護者の方だけではなくムンバイに住むたくさんの方々と楽しく一生懸命競技をして一日を過ごします。

4年生以下の子どもたちは、野外活動を行い、

体験を通して協力することの大切さ学んでいます。5年生以上の子どもたちが行う修学旅行ではインド各地に見学に行くことで、インドを少しでも身近に感じながら理解を深めようとしています。



(野外活動:ムンバイ近郊) (修学旅行:デリー)

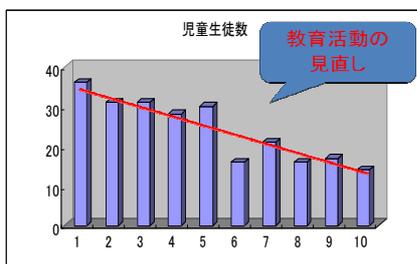
また、ボンベイ日本人学校では、インドをはじめ、インターナショナルスクールとの交流にも力を入れています。1年に1回行う“グルモハル祭”では、日本人学校の子どもたちが手作りのお店を準備し、現地校の子どもたちを学校に招き、一緒に遊びながら交流を深めます。

インドに住んでいるチャンスを生かし、インドを理解するとともに日本の良さも理解してもらえるようにいろいろな国の子どもたちと交流を続けています。



(2) 新たな取り組み

ボンベイ日本人学校は、全校児童生徒の数が年々減少し、最盛期の半分以下にまで落ち込んでいます。これは、ムンバイに進出する日本企業数が増加傾向にあるのに対して、反対の現象となっています。この要因としては、ムンバイの家賃高騰やムンバイテロや鳥インフルエンザ等による児童生徒の安全確保といった問題も含め、「日本人学校の良さ」を伝え切れないことが挙げられます。



そこで、保護者アンケートを実施し、保護者のニーズに答えられるようにしていきまし

- |   |
|---|
| <p>&lt;保護者のニーズ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小・中受験への対応</li> <li>2. 学力の向上</li> <li>3. 心の教育</li> <li>4. 英語力の向上</li> </ol> |
|---|

た。この結果、週時数は、小学部低学年で 28 時間、3年生以上は 31 時間を確保し、平成 22 度から始まる学習指導要領を完全実施すると共に朝のドリルタイム等も実施することにしました。一日の日課表は7時間の日が3回あり、下校は 16 時 30 分となりました。また、受験等への対応では、基本的には個別の対応になりませんが、土・日の補修授業を実施、より高度な問題に対応できるよう指導していきまし

また、子どもたちには、学校生活を充実させることを目的に、伝統的な活動を整理し、新たな活動への取り組みも始めまし



(英語講師による全校英語劇) (全校バーベキュー会)

海外特有の治安の悪化(特にテロ後)に対しては、警備員の増員やスクールバスへの添乗、緊急時対応訓練の回数を増やすなど対策をとってきまし



9. 終わりに

派遣を通して、たくさんのインドの人々や日本人学校関係者と触れ合いことができ、日本人学校に求められていることや日本人の長所、短所を感じることができました。

インドでは、日常生活が「平穏」という日々が少なく、常にハプニングがありましたが、このハプニングをインドの人々と一緒に楽しめるようになったのも人とのかかわりがあったからだと思います。